

# 子育て中の母親の個人特性とネットワーク構築過程の検討

— 「社会的代理人」 利用に関する自由記述を用いて (2) —

○片桐咲恵<sup>1</sup>・西村太志<sup>2</sup>・小杉考司<sup>3</sup>

(<sup>1</sup> 山口大学大学院教育学研究科・<sup>2</sup> 広島国際大学心理学部心理学科・<sup>3</sup> 山口大学教育学部)

## 問題・目的

妊娠・出産を契機に母親のもつネットワークも変化中、さまざまな人物からの支援や関わりを想定した研究の必要性が指摘されている(加藤, 2008)。片桐ら(2016)は Bradshaw(1998)が提唱した社会的代理人仮説による「社会的代理人」に着目した、母親のネットワーク構築過程の検討を行っている。それによると、母親が対人関係構築の際に伴う人物と交流場所またはその内容との関連が示されている。一方で、「社会的代理人」として一緒に行動する人が少ない対象者はどのように関係を構築しているのだろうか。本研究では、片桐ら(2016)のうち、「社会的代理人」として配偶者・家族・友人のうち1対象者のみを選択している母親に着目し、自由記述からその利用過程を検討することを目的とする。

## 方法

調査手続きは、片桐ら(2016)と同様である。  
調査時期：2015年10月に実施(web調査)  
調査対象者：就学前の子どものみを養育している全国の女性600名を対象とした。  
調査内容：社会的代理人となり得る対象(配偶者、配偶者以外の家族、友人・知人)を設定し、利用の有無を尋ね、具体的な経験内容については自由記述(150字以内)で回答を求めた。個人特性として年齢、就労状況などを尋ねた。

## 結果・考察

回答に論理的矛盾が含まれる55名を除外し、545名(平均年齢:30.60歳)を分析対象とした。そのうち各対象者を伴った経験のある440名の自由記述について KHcoder(樋口, 2014)を用い形態素解析し、集計した。まず全対象者の全自由記述から抽出された上位20の語句を表1に示した。次に、1対象のみを利用したことがある171名の母親の自由記述を集計し上記と同様の手続きで表2に示した。さらに、この171名を就労状況で分類し、有職者55名の自由記述から抽出されたものを表3、無職者(専業主婦)115名も同様に表4に示した。

表1. 全対象者(440名)における上位20の抽出語句と出現回数(のべ数)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
1 子ども	586	8 参加	194	15 連れる	111
2 行く	318	9 公園	168	16 支援	106
3 一緒	277	10 母親	163	17 近所	95
4 子育て	213	11 遊ぶ	147	18 知り合う	95
5 友人	210	12 お話	142	19 情報	93
6 配偶者	201	13 センター	121	20 交流	91
7 地域	199	14 実母	118		

表2. 代理人1対象者(171名)における上位20の抽出語句と出現回数(のべ数)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
1 子ども	112	8 母親	38	15 交換	27
2 行く	66	9 配偶者	37	16 お話	26
3 子育て	56	10 知り合う	35	17 遊ぶ	25
4 参加	49	11 公園	34	18 仲良く	24
5 一緒	47	12 友人	33	19 イベント	22
6 地域	39	13 支援	30	20 実母	22
7 センター	38	14 情報	29		

表3. 代理人1対象者(有職・55名)における上位20の抽出語句と出現回数(のべ数)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
1 行く	27	8 配偶者	11	15 イベント	8
2 子ども	25	9 友人	10	16 交換	8
3 子育て	17	10 お話	9	17 公園	8
4 一緒	15	11 実母	9	18 地域	8
5 参加	15	12 情報	9	19 育休	7
6 センター	11	13 知り合う	9	20 休日	7
7 支援	11	14 母親	9		

表4. 代理人1対象者(無職・115名)における上位20の抽出語句と出現回数(のべ数)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
1 子ども	86	8 センター	26	15 遊ぶ	20
2 行く	38	9 公園	26	16 交換	19
3 子育て	38	10 知り合う	26	17 支援	19
4 参加	34	11 配偶者	25	18 お話	17
5 一緒	32	12 友人	23	19 連れる	17
6 地域	30	13 仲良く	22	20 イベント	14
7 母親	29	14 情報	20		

表1に比べ順位が+5以上の語句と-5以上の語句についてみていく。表2では、順位が上がった語句として、「センター」、「知り合う」、「情報」があった。一方で、順位が下がった語句として、「友人」、「遊ぶ」、「実母」があった。さらに表3では、「センター」、「支援」、「情報」、「知り合う」が上がっており、「公園」、「地域」が下がっていた。表4では、「情報」が上がっており、「友人」、「お話」が下がっていた。これらの事から、「社会的代理人」として伴う人物が少ない場合、就労している母親は公的な機関である「センター」を利用し、「支援」を得ていると考えられる。一方で専業主婦は関係拡大過程において「情報」を多く得る機会が多いことが示唆された。實川ら(2011)は、求める同質感は母親の就労状況によって異なることを指摘しており、今回も対応する結果が認められた。

\*1) 本研究は JSPS 科研費 15K01787 の助成を受けた。